

うきは市上水道計画の成り立ち

① 筑後川水系のダム開発

昭和の時代から国が中心となり、北部九州経済の発展のためにダム開発が進められてきました。



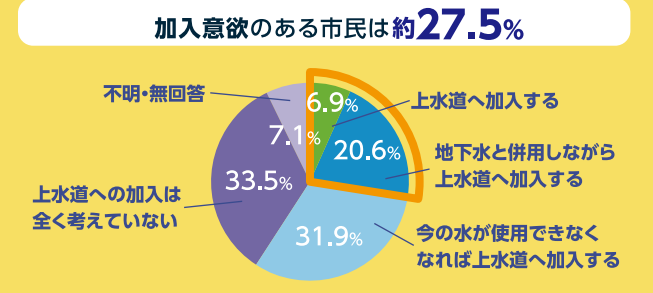
② 筑後川水系最後のダムである小石原川ダムに加入

- 平成8年 浮羽郡上水道研究協議会設立。
- 平成13年 福岡県より筑後川水系最後のダムである小石原川ダムの新規利水者の調整が行われる。将来の水道事業の規模を算定するため、浮羽郡上水道基本計画を策定。
- 平成14年 小石原川ダムでの水道用水必要量を回答し、参画表明(現うきは市分 5740t/日)。筑後地域広域的水道整備計画改訂。
- 平成17年 筑後川水系の水資源開発基本計画(フルプラン)の全部変更が閣議決定。うきは市として水資源機構へダム建設費用負担を同意。
- 平成22年 平成13年度作成「浮羽郡上水道基本計画」の改訂(再編成)。
- 平成27年 上水道事業に関する市民アンケートの実施。
- 平成28年 農的水循環環境調査(～平成30年)。
- 令和2年 小石原川ダム管理開始(4月)。

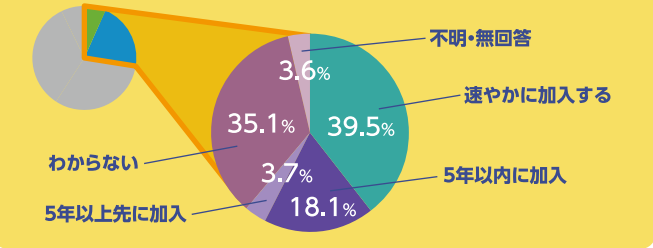
水質の不安要素はどんなもの？

内容	総数に対する不適合率
一般細菌	5.2%
大腸菌	1.5%
鉄及びその化合物	0.8%
マンガン及びその化合物	6.6%
濁度	0.8%

平成27年 市民アンケート



加入意欲のある市民の約**39.5%**(=市民の約**11%**)
が速やかに加入する



ダムの整備に12億円を拠出し上水道の水源を確保。

- 市内自治協議会をまわり意見交換会の開催
- 事業費、水道料金等の調査・試算
- 水のワークショップ開催(右頁参照)

市は地域の状況と市民の意見を十分に踏まえた上で、現段階では令和7年度ごろのうきは市水道事業基本計画の策定を目指す。

市民の声

年金等も減り、さらには上水道料金を払わなければならないとなると生活が苦しくなる。

現状、水に困っていないので上水道の話を聞くと、お金がもったいないと感じる。

井戸を掘替えたいが敷地いっぱい家が建っており、掘替えが難しい。

冬の季節やある時期に、井戸枯れや水質が悪くなることもあるので、水量・水質が安定した上水道が欲しい。

上水道整備となったら、井戸水と併用が良い。

飲み水はウォーターサーバーを利用したり、浄水器設置している所もあるから、上水道の必要性はないかと思う。

上水道というより、地下水を保全していくほうに力を入れ、山林の環境を整備していくことによって、良い水の循環が出来上がり、地下水も良くなるのでは。

水にお金が掛かっていない恵まれた地域で育ち、地下水のありがたさを感じる。

井戸水が使えている現状、ライフラインは確保できているが、将来はどうなるか分からない。

節水を心がける等、地下水を大切にすることも必要。

上水道が絶対必要だとは感じない。

田畑等で使用する農業や肥料などが、将来地下水に影響しないか心配。

子ども・孫世代を思うと上水道は必要だと感じる。

上の世代は地下水のみで良いと考える人が多いのでは。

現在の井戸は良い地下水が出ており、安心・安全と考える。

水は自分自身のことだと思わないので、自分たちが考えていかなければならない。

加湿器や冷蔵庫の製氷、給湯器など井戸水を推奨していない機器がある。

企業誘致するには、上水道整備していた方が呼びやすいのではないかと。

若い世代の意見も聞き取ってみたい。

上水道事業を開始しても加入率が低いと財政負担が大きいのではないかと。

若年層・子育て世代・女性層等の市民との意見交換の場「水のワークショップ」

うきは市水環境課の職員が地下水の現状や上水道の仕組みなどのお話をさせていただいた上で、意見交換を行っています。令和3年10月からこれまで11回開催しており、お互いの意見を聴きながら、参加者同士が話し合う場面もあり、参画意識が高まる機会にもなっています。地域の各団体・組織やグループなど少数名から開催しておりますので、水環境課までお気軽にご連絡ください。

